

暮らしに 型染を

芹沢染紙研究所の挑戦

型染を人々の暮らしに。
終わりになき芹沢の挑戦。

2026
7.1_水 ⇒ 9.23_{水祝}

静岡市立 芹沢銈介美術館

静岡市駿河区登呂五丁目 10-5 (登呂公園内)
TEL ▶ 054-282-5522 HP ▶ www.seribi.jp



【左より】1955(昭和30)年9月型染カレンダー、1957(昭和32)年7月型染カレンダー



1



2



3



4



5



6

【開館時間】9:00～16:30
【休館日】毎週月曜日(7/20、9/21は開館)、7/21、8/12

【観覧料】一般420円/高校生・大学生260円/
小学生・中学生100円/未就学児無料
(団体割引は30名以上でご利用いただけます)
※静岡市内在住の70歳以上の方・小中学生(通学含む)無料
※障がい者手帳等の提示により本人及び同伴者1名無料

【交通】
＜バス＞静岡駅南口22番バスのりばから
「登呂遺跡」行き乗車、約10分終点下車、徒歩約3分
＜タクシー＞静岡駅南口から約10分
＜東名高速＞静岡ICまたは日本平久能山スマートICより約10分
＜駐車場＞登呂公園南側に有料駐車場があります(400円/1日)

●会期中のイベントについてはホームページやXをご覧ください。お電話にてお問い合わせください。

静岡市立 芹沢銈介美術館
静岡市駿河区登呂五丁目10-5(登呂公園内)
TEL▶054-282-5522 HP▶www.seribi.jp

芹沢銈介は、1927(昭和2)年、柳宗悦が著した「工藝の道」を読んで強い感動を受け、柳が主唱した民藝運動の主要なメンバーの1人として活動するようになります。柳が理想としたのは、優れた工芸品を工房で量産して、一般に安価に提供し、人々の日常生活を美しいもので満たすことでした。1955(昭和30)年、芹沢が自邸内に立ち上げた「芹沢染紙研究所」は、柳の理想に型染で挑戦したものと云えます。カレンダー、グリーティングカード、うちわ、扇子、包装紙など、全く新しい型染の用途を開拓して工房で量産し、国内外へ広く提供し続けました。

本展覧会では、昨年度新たに寄贈された作品を含め、300点の作品を展示し、約30年の長きに渡って続けられた芹沢染紙研究所の仕事を振り返ります。